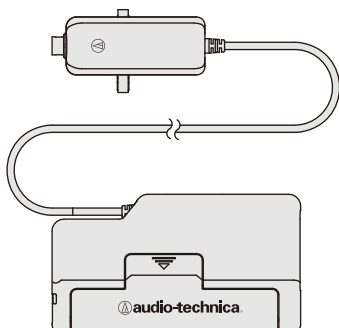


取扱説明書

赤外線コードレスマイクロホンシステム



コードレストランスミッター
AT-CLM700BP



レシーバー
AT-CR701



充電器
BC700



受光ユニット
AT724RXMK2

- 軽量かつコンパクトな高音質コードレストランスミッター
- 1つのトランスミッターで2つのチャンネルが選択可能 (A/B 切り換え)
- 使用する部屋の大きさに合わせて赤外線出力を3段階 (ECO/LO/HI) に切り換えられる省電力タイプ
- マイク出力ゲインレベルの切り換えが可能
- 赤外光発光部にはワンタッチで取り付けられるタイピンクリップを搭載
- 取り外し可能な受光ユニットと外部取り付け受光ユニットにより安定した受信を実現
- 高性能受光素子採用により受光ユニット数を低減
また小型化を実現

お買い上げありがとうございます。
ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。
また、いつでもすぐ読める場所に保管しておいてください。

目次

安全上の注意	2, 3
使用上の注意	3
トランスミッター：各部の名称と機能 / 使いかた / 電池の入れかた	4
トランスミッター：使用上の注意	4
レシーバー：各部の名称と機能 / 接続のしかた	5
レシーバー：接続の注意	5
充電器：各部の名称と機能 / 充電のしかた	6
充電器：取り扱い上の注意 / 充電上の注意	6
受光ユニット：設置のしかた / 取り付け上の注意	7
受光ユニット：ケーブルを短くする場合	7
受光ユニット：セッティング例	7
赤外線コードレスマイクロホンシステム互換表	8
AT-HM700 接続のしかた / 装着のしかた	9
故障かな？と思ったら	10
テクニカルデータ	10

安全上の注意

本製品は安全性に充分な配慮をして設計していますが、使いかたを誤ると事故が起こることがあります。事故を未然に防ぐために下記の内容を必ずお守りください。

	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が切迫しています」を意味しています。
	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意味しています。
	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性があります」を意味しています。

コードレストランスミッター／受光ユニットについて

●本製品に異物(燃えやすい物、金属、液体など)を入れない 感電、故障や火災の原因になります。 ●同梱のポリ袋は幼児の手の届く所や火のそばに置かない 事故や火災の原因になります。 ●異常に気付いたら使用しない 異常な音、煙、臭いや発熱、損傷などがあつたら、お買い上げの販売店か当社のサービスセンターに修理を依頼してください。 ●分解や改造はしない 感電、故障や火災の原因になります。 ●強い衝撃を与えない 感電、故障や火災の原因になります。 ●濡れた手で触れない 感電やけがの原因になります。 ●水をかけない 感電、故障や火災の原因になります。 ●布などでおおわない 過熱による火災やけがの原因になります。

●不安定な場所に設置しない 落下などによりけがや故障の原因になります。 ●直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かない 故障、不具合の原因になります。 ●火気に近づけない 変形、故障の原因になります。 ●ベンジン、シンナー、接点復活保護液などは使用しない 変形、故障の原因になります。

レシーバー／充電器について

●付属の AC アダプター以外使用しない 故障、不具合の原因になります。 ●本製品に異物(燃えやすい物、金属、液体など)を入れない 感電、故障や火災の原因になります。 ●同梱のポリ袋は幼児の手の届く所や火のそばに置かない 事故や火災の原因になります。 ●異常に気付いたら使用しない 異常な音、煙、臭いや発熱、損傷などがあつたら、すぐにACアダプターをコンセントから抜き、お買い上げの販売店か当社のサービスセンターに修理を依頼してください。 ●分解や改造はしない 感電、故障や火災の原因になります。 ●強い衝撃を与えない 感電、故障や火災の原因になります。 ●濡れた手で触れない 感電やけがの原因になります。 ●水をかけない 感電、故障や火災の原因になります。 ●布などでおおわない 過熱による火災やけがの原因になります。

●不安定な場所に設置しない 転倒などによりけがや故障の原因になります。 ●直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かない 故障、不具合の原因になります。 ●火気に近づけない 変形、故障の原因になります。 ●ベンジン、シンナー、接点復活保護液などは使用しない 変形、故障の原因になります。 ●狭い密閉された場所や熱がこもる場所には置かない 変形、故障の原因になります。

電池について

指定電池	専用ニッケル水素充電電池（付属）または単3形アルカリ乾電池
※指定電池以外は使用しないでください。	

●電池の液が目に入ったときは目をこすらない すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い、医師の診察を受けてください。 ●電池の液が漏れたときは素手で液を触らない ■液が本製品の内部に残ると故障の原因になります。電池が液漏れを起こした場合は、当社サービスセンターまでご相談ください。 ■万一、なめた場合はすぐに水道水などのきれいな水で充分にうがいをし、医師の診察を受けてください。 ■皮膚や衣服に付いた場合は、すぐに水で洗い流してください。皮膚に違和感がある場合は医師の診察を受けてください。

●火の中に入れない、加熱、分解、改造しない 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。 ●釘を刺したりハンマーで叩いたり踏み付けたりしない 発熱、破損、発火の原因になります。 ●幼児の手の届く所に置かない 電池を飲み込んだ場合は、すぐに医師の診察を受けてください。窒息や内臓への障害の恐れがあります。 ●電池は (+)(-) を逆に入れない 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。 ●硬貨やカギなど金属製のものと一緒の場所に置いたり、電池の (+)(-) を接続しない ショート状態になり液漏れ、発熱、破裂の原因になります。 ●新しい電池と一度使用した電池、銘柄や種類の違う電池を混ぜて使用しない 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。 ●乾電池は充電しない 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。 ●使い切った電池はすぐに取り出す 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。 ●長期間使用しない場合は電池を取り出す 液漏れによる故障の原因になります。

●落下させたり強い衝撃を与えない 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。 ●以下の場所で使用、放置、保管しない ■直射日光の当たる場所、高温多湿の場所 ■炎天下の車内 ■ストーブなどの熱源の近く 液漏れ、発熱、破裂、性能低下の原因になります。 ●水に濡らさない 発熱、破裂、発火の原因になります。 ●指定の充電器、ACアダプター以外で充電しない 故障、火災の原因になります。 ●外装ラベルがはがれた電池は使用しない、ラベルをはがさない ショート状態になりやすく、液漏れ、発熱、破裂の原因になります。 ●変形させたりハンダ付けしない 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。 ●保管、廃棄の場合は端子(金属部分)をテープなどで絶縁する 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。 ●機器を使用したあとは必ずスイッチを切る 液漏れの多くは、スイッチの切り忘れによる電池の消耗が原因です。 ●指定の電池以外使用しない 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。 ●使用済みの電池は自治体の所定の方法で処分する 環境保全に配慮してください。



使用済みの充電式電池は、産業廃棄物として処理するか当社サービス（下記）へお送りください。
なお、送料はお客様ご負担とさせていただきます。
○送り先
〒915-0003 福井県越前市戸谷町87-1
株式会社テクニカフクイ サービス課 宛
TEL:0778-25-6736

AC アダプターについて

⚠ 警告

- **AC100V以外の電源には使用しない(日本国内専用)**
過熱による火災など事故の原因になります。
- **本製品以外には使用しない**
過熱による火災など事故の原因になります。
- **異常(音、煙、臭いや発熱、損傷など)に気付いたら使用しない**
異常に気付いたらすぐに使用を中止して、コンセントから抜きお買い上げの販売店か当社のサービスセンターに連絡してください。そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。
- **コードは伸ばして使用する。釘などでの固定や、束ねたままでの使用はしない**
過熱による火災など事故の原因になります。
- **コンセントや本体にプラグを差し込むときは根元まで確実に差し込む**
過熱による火災など事故の原因になります。
- **コードを引っ張らず、プラグを持ってまっすぐ抜き差しする**
断線、故障の原因になります。
- **コードの上に物を置いたり、敷物や家具などの下に入れたりしない**
断線、故障の原因になります。
- **分解や改造はしない**
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **強い衝撃を与えない**
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **濡れた手で触れない**
感電によるけがの恐れがあります。
- **布などでおおわない**
過熱による火災など事故の原因になります。
- **プラグにたまったほこりなどは乾いた布で定期的に拭き取る**
過熱による火災など事故の原因になります。
- **ベンジン、シンナー、接点復活剤など薬品は使用しない**
変形、故障の原因になります。

⚠ 注意

- **長時間使用しないときは、コンセントから抜く**
省エネルギーにご配慮ください。
- **足に引っかかりやすい場所にコードを引き回さない**
故障や事故の原因になります。
- **通電中のACアダプターに長時間触れない**
低温やけどの原因になることがあります。

使用上の注意

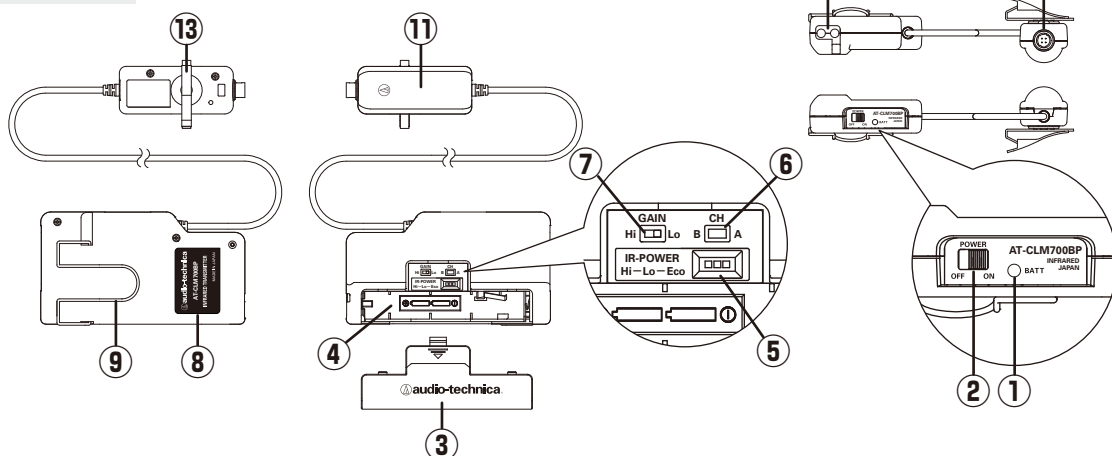
- ご使用の際は、接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 受光ユニットが超高度なため直射日光の射し込む場所などでは、ノイズが発生することがあります。その場合はカーテンなどで窓をおおってください。
- 赤外光発光部は手でおおわないでください。

⚠ 設置上の注意

- ・ 振動、衝撃の多い場所、ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。
- ・ 調理台の近くなど、油、蒸気、熱のあたる場所には設置しないでください。
- ・ アンプの近くやラックの中など、熱がこもる場所での設置は避けるか、通気をしてください。
- ・ 赤外線の出射距離は、天井の壁や色や材質によっても変化します。
- ・ 到達距離とは無関係にノイズが発生する場合があります。その場合には適切な場所に受光ユニット、レシーバーを設置してください。
- ・ 天井に受光ユニットを設置する際は、窓または壁から少なくとも2～3m離して設置してください。
- ・ 壁に受光ユニットを設置する際は、天井から少なくとも2～3m離して設置してください。
- ・ 受光ユニットは、蛍光灯から50cm以上離して設置してください。
- ・ 音声ケーブル・受光ユニットケーブルの配線上に大型電気機器がある場合に、ノイズが発生する可能性があります。
- ・ そのほか下記の赤外線発生源の近くに受光ユニット、レシーバーを設置すると、システムの動作不良やノイズが発生する原因となる可能性があります。また、マイクロホンについても同様に赤外線やノイズの発生源には近付けないように注意してください。
- ・ 照明装置
- ・ プロジェクター(液晶やDLPなど)、OHP、白熱電球など
- ・ 水銀灯、ハロゲン灯、インバータ式蛍光灯、ブラックライト
- ・ プラズマディスプレイ
- ・ リモコン、赤外線マイク、赤外線LANなどの赤外線機器
- ・ 調光器
- ・ デジタルパワーアンプなどの、デジタル機器およびその配線(デジタルパワーアンプのスピーカー出力配線など)

トランスミッター：各部の名称と機能／使いかた／電池の入れかた

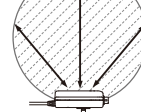
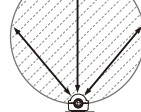
AT-CLM700BP



- ①電源インジケータ 電源を入れたと電池の残量を表示します。
点灯 : 使用可能
点滅 または 無点灯 : 充電してください
※点灯色 A: 黄 B: 緑
- ②電源スイッチ ON側にスライドさせると電源が入ります。
- ③バッテリーカバー
- ④バッテリーケース
- ⑤出力切換スイッチ (出荷時はLOに設定されています。)
ECO: 出力小 LO: 標準 HI: 出力大
※HI出力の場合は、使用時間が短くなりますのでご注意ください。
- ⑥チャンネル切換スイッチ (出荷時はAに設定されています。)
使用するレーザーのチャンネルに合わせてください。
※搬送周波数 A: 2.06MHz B: 2.56MHz
- ⑦GAIN(音量)切換スイッチ (出荷時はHIに設定されています。)
LO: 音量小 HI: 音量大
※音量をLOにすることでハウリングを軽減できる場合があります。
※AT-CLM900シリーズと合わせて使用される場合は音量をLOにすることを推奨します。
- ⑧定格シール
- ⑨ベルトクリップ ベルトなどに差し込みます。
- ⑩充電端子部 充電器に差し込む接点部分です。
本機は内蔵の充電式電池を使用するのが原則ですが、緊急の場合、単3形アルカリ乾電池2個でも使えます。その場合、電池残量表示は正しく表示されません。また、アルカリ電池を使用する時は絶対に充電しないでください。
※電源インジケータが点滅表示ですと受信範囲が狭くなり、ノイズの混入や途切れが発生する場合があります。
- ⑪赤外光発光部 赤外光発光LEDが内蔵されています。
- ⑫マイク入力端子 別売のAT-HM700/1.0を接続してください。
- ⑬タイピンクリップ 赤外光発光部の固定用クリップです。
縦横に45°向きを変えて固定することができます。

赤外光の発光範囲(参考値)

ECO 10m	ECO 10m
LO 12m	LO 12m
HI 16m	HI 16m

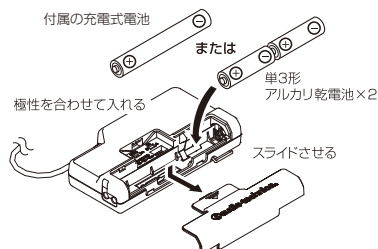


注意

赤外光の発光面は、手や衣類で覆わないでください。

■電池の入れかた

- ①電源をオフにします。
- ②バッテリーカバーの天面の④audio-technicaロゴ上部の△を親指で押さえ、スライドさせると開きます。



- ③付属の充電式電池、または単3形アルカリ乾電池をバッテリーケース内の極性に合わせて入れます。
- ④バッテリーカバーを取り付けて完了です。

■使いかた

使用上の注意

- 赤外光の到達距離は壁、天井や床などの色や材質によっても変わります。
- 到達距離とは無関係にノイズが発生することがあります。その場合は、受光ユニットを適切な位置に取り付け直してください。

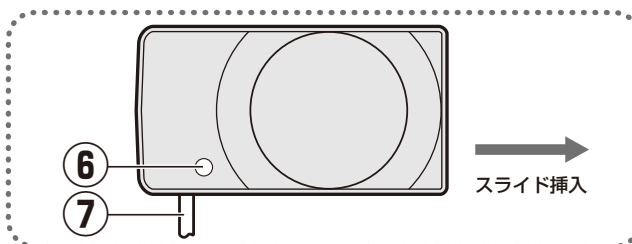
※接続する機器の取扱説明書をあわせてお読みください。

- ①トランスミッターを充電します。
- ②別売のヘッドウォーンマイクロホンマイク入力端子に接続します。
- ③レーザーの出力切り換え(マイク⇄ライン)を確認します。
- ④レーザーに受光ユニットを接続し、レーザーの電源を入れます。
※電源を入れてから約1秒間は音が出ません。
- ⑤マイクロホンと受光ユニット正面との距離はECO(10m)/LO(12m)/HI(16m)以内になります。レーザーのミュートを「入」にする場合はECO(5m)/LO(7m)/HI(9m)以内になります。
(距離は室内の状況により変化します。)
- ⑥タイピンクリップで赤外光発光部を胸部中央に装着します。
(このとき赤外光発光部が体と反対側に向くように装着してください。)
- ⑦トランスミッターの電源を入れます。
- ⑧マイク音量はお手持ちの機器やレーザーのボリュームで調整します。

⚠ 使用上の注意

- トランスミッターの電池残量表示(電源インジケータ)は、あくまでも一つの目安としてご利用ください。
また、電池残量表示は純正の充電式電池以外対応していないため必ずトランスミッター専用の充電式電池をご利用ください。
- ご購入直後の1回目の充電およびトランスミッターの電源スイッチをONにしたままで長時間放置され過放電になっている場合は、1回の充電で十分に充電されない場合がありますので2回充電するようにお願いいたします。
- 過放電の状態によっては電池をいため使用不能になる場合もあるので、トランスミッターの電源インジケータが消灯したらすぐにトランスミッターの電源スイッチを切ってください。
- 市販の単3形アルカリ乾電池を使用した場合、トランスミッターの電池残量表示は正しく表示されない場合がございます。
- 電池の極性を逆に入れた場合、故障の原因になります。
- トランスミッターの赤外光発光部およびレーザーの受光部は手でおおわないでください。
また発光部と受光部との間に仕切りや障害物があるとノイズが混入したり、聴こえなかったりする原因になります。
- トランスミッターの赤外光発光部を強く握ったりひねったりしないでください。
故障の原因となることがあります。

レシーバー：各部の名称と機能／接続のしかた



①電源インジケーター（赤） 電源が入ると点灯します。

②A チャンネルボリューム

③B チャンネルボリューム

④A チャンネルマイクインジケーター（黄）

A チャンネルのマイク信号を受信すると点灯します。

⑤B チャンネルマイクインジケーター（緑）

B チャンネルのマイク信号を受信すると点灯します。

⑥受光ユニット電源 LED

電源が入ると点灯します。（ケーブルを接続したとき）

AT-CR701：赤

⑦受光ユニットのケーブル（30cm）（AT-CR701）

本体底面の溝に入れて固定してください。

*受光ユニット脱着の際は、本体底面の溝からケーブルを抜き、挟まないように行なってください。断線の原因になることがあります。

⑧A チャンネル・マイク出力ジャック（RCA ピン）

⑨B チャンネル・マイク出力ジャック（RCA ピン）

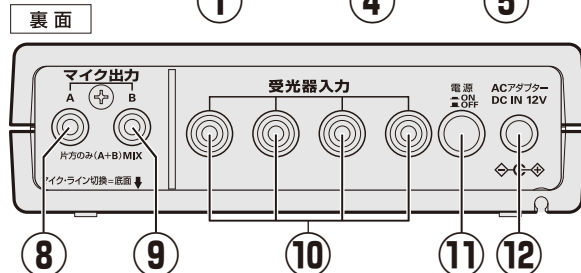
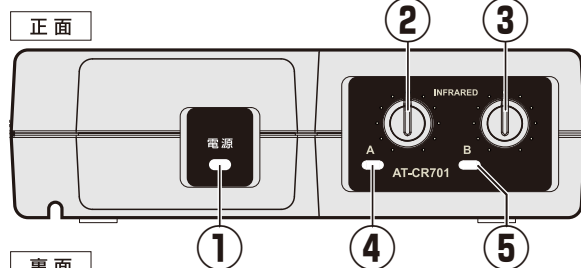
●お手持ちのアンプのマイク入力ジャックを使用する場合

付属の 3.0m ケーブルの RCA ピンプラグを本製品の出力ジャックの A、B どちらかに、Φ6.3 標準プラグをお手持ちのアンプのマイク入力ジャックに接続します。

●お手持ちのアンプのライン入力を使用する場合

付属の RCA ピンプラグ ⇄ RCA ピンプラグケーブルの一方を本製品の出力ジャックの A、B どちらかに、もう一方をお手持ちのアンプのライン入力に接続します。

⑧ ⑨のどちらも A と B チャンネルのミックス出力となります。単独で A(B) チャンネルを使用する場合、B(A) チャンネルのマイク出力ジャックも同様に接続してください。



⑩受光器入力

受光ユニットのプラグを差し込みます。

⑪電源スイッチ

⑫外部電源入力ジャック（DC IN 12V）

AC アダプターの DC 出力プラグを差し込みます。

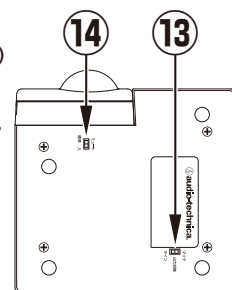
*付属の AC アダプター以外は、使用しないでください。

⑬出力切換スイッチ

お手持ちの機器のマイク入力ジャックに接続した場合はマイク側、ライン入力に接続した場合はライン側に切り換えます。

⑭ノイズミュート切換スイッチ

使用時に音の途切れノイズが気になるときに、「入」にしてください。受信範囲は狭くなりますが、ノイズは少なくなります。



△ 接続の注意

- マイク出力と受光器入力への付け違いには充分ご注意ください。逆に接続すると火災や故障の原因になります。（マイク出力は白色、受光器入力は黒色で区別されています。）
- 本製品を高温になるパワーアンプやデジタルノイズを出す機器の近くに置かないでください。高温やデジタルノイズにより受信感度が悪くなる場合があります。
- プラズマディスプレイに受光ユニットを向けたり、近付けるとノイズが極端に増える場合や受光範囲が狭くなる場合があります。

■ 接続のしかた

*接続する機器の取扱説明書をよくお読みください。 *8 ページの互換表で適合機種をご確認ください。

①AC アダプターの DC 出力プラグをレシーバーの DC 入力ジャック（DC IN 12V）に差し込みます。

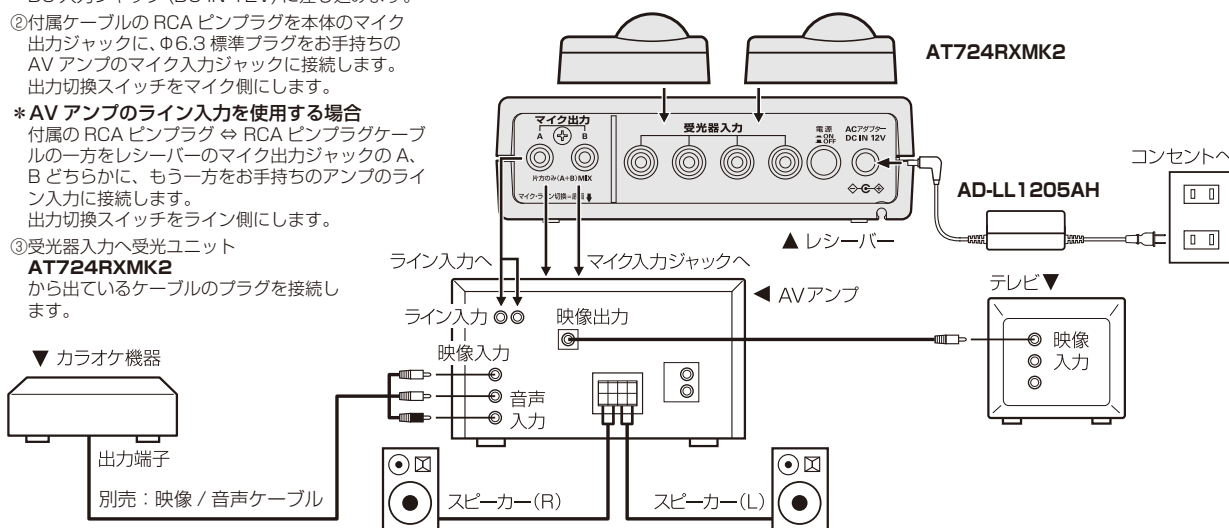
②付属ケーブルの RCA ピンプラグを本製品のマイク出力ジャックに、Φ6.3 標準プラグをお手持ちの AV アンプのマイク入力ジャックに接続します。出力切換スイッチをマイク側にします。

*AV アンプのライン入力を使用する場合

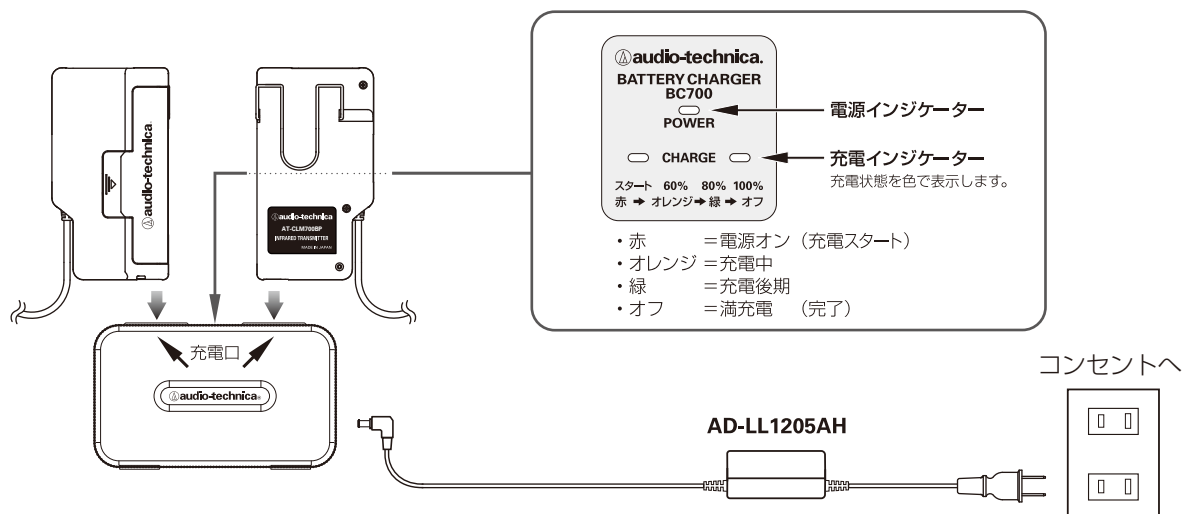
付属の RCA ピンプラグ ⇄ RCA ピンプラグケーブルの一方をレシーバーのマイク出力ジャックの A、B どちらかに、もう一方をお手持ちのアンプのライン入力に接続します。出力切換スイッチをライン側にします。

③受光器入力へ受光ユニット

AT724RXXMK2 から出ているケーブルのプラグを接続します。



充電器：各部の名称と機能／充電のしかた



■充電のしかた

- ① AC アダプターの出力プラグを充電器の外部電源入力ジャック (DC IN 12V) に差し込みます。
 - ② AC アダプターの電源プラグを AC 100V コンセントに差し込むと電源インジケータ (POWER) が赤に点灯します。
 - ③ トランスミッターの電源をオフにしてから、静かに充電口へ差し込みます。
 - * トランスミッターを差し込んで、充電インジケータが点滅する場合は、マイコンエラーの可能性あります。一度電源を切ってください。
 - * 電源がオンの状態で充電口に差し込むと、自動的に電源がオフになり、充電が開始されます。(オートオフ機能)
 - ④ 充電インジケータは充電中に赤からオレンジに点灯し、満充電近くなると緑に点灯します。約 5.5 時間で充電完了します。充電式電池の消耗が少ないときは、自動的に短時間で充電完了します。
 - ⑤ 充電インジケータが消灯すれば、充電完了です。トランスミッターは約 8 時間連続使用可能です。
(出力切換スイッチ LO 時)
- * 充電状態の表示は目安です。極力、満充電 (充電インジケータが消灯) になってからご使用ください。

⚠ 取り扱い上の注意

- 付属の専用充電式電池は **AT-CLM700BP** 専用です。ほかの用途に使用しないでください。
- 所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合には、充電をやめてください。
- 電池が漏液したり、変色・変形、そのほか今までと異なることに気付いたときは直ちに電池を外して使用しないでください。
- 充電式電池にまれに白い粉のようなものが付着することがありますが、故障ではありません。よく拭き取ってから再度ご使用ください。
- 初めて使用の場合に、サビや異臭、発熱、そのほか異常と思われたときは使用しないでください。

⚠ 充電上の注意

- 平らな場所で充電してください。傾けて使用すると充電できません。
- 本製品はトランスミッターを充電器に差し込んで充電が始まると自動的にトランスミッターの電源が切れますが、念のためトランスミッターの電源スイッチをオフにしてから充電してください。トランスミッターの電源スイッチがオンの状態で充電器に差し込むと異音が発生する場合がありますが、使用上問題ありません。
- 充電インジケータが消灯するまでトランスミッターを使用しないでください。
- 充電式電池使用の際は、使い切らないうちに充電を繰り返すと、充電状態とは無関係に電池が消耗するメモリー効果と呼ばれる現象が起きます。その場合、一度電池をトランスミッターのインジケータが消えるまで使い切ってから充電してください。改善されない場合、充電式電池の寿命の可能性あります。新しい充電式電池と交換してください。
- 充電しないでスタンドとしてご使用の場合、ACアダプターを抜いてください。
- 充電中 AC アダプターから熱が発生します。充電器を AC アダプターの横に設置すると、温度により電池の電圧が変化し充電が途中で終わり、満充電されないことがあります。充電器は AC アダプターの横や高温になる場所には設置しないでください。
- 充電式電池はその性格上、充電を繰り返すと電池の容量が減少してきます。使用時間が短くなってきたら、なるべく早く新しい電池と交換されることをお勧めします。
- 充電器 **BC700** の充電状態の表示は、あくまでも目安ですので、極力満充電 (オフ) になってからご使用ください。
- 充電中にトランスミッターを抜いて再度入れると、充電量の確認に約 30 分かかります。そのあいだ電池の充電量にかかわらず充電インジケータは充電スタート表示である赤色に変わるのでご注意ください。
- トランスミッターの底の充電端子が汚れていると十分に充電できないことがあります。充電端子の汚れを落としてから充電器に入れてください。
- トランスミッターを充電器に差し込む際はケーブルに注意してください。ケーブルを挟み込んだり負荷がかかったりすると正しく充電されません。充電インジケータが安定して点灯することを確認してください。
- 初めて充電を行なったとき、または長い間使用しないときは、充電式電池の持続時間が短くなる場合があります。何回か充放電を繰り返すと、通常通り充電できるようになります。
- 長い間使用しない場合、電池の劣化を防ぐため、半年に 1 度充電を行なってください。
- 長い間使用しなかったときは、充電時間が長くなる場合があります。

- * **BC700** は 2 台のトランスミッターを同時充電可能です。出荷時は充電されていません。
- * 付属の専用充電式電池は約 750 回の繰り返し使用が可能です。
- * **BC12** では充電ができません。

受光ユニット：設置のしかた (AT724RXMK2)

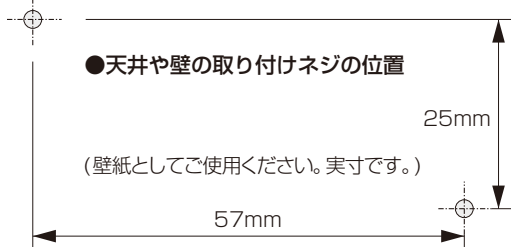
*プラスドライバーと木ネジ（付属）を用意します。

*受光ユニットは、赤外光発光部から直視可能な場所でも、レーザーからケーブルが届く範囲に設置します。障害物がなく全体を見渡せる壁面の、天井からやや下がった位置に2個離して取り付けるのが最も効果的です。

*受光ユニットのケーブルを標準より長くする場合、各受光ユニットに取り付けるケーブル長に差があるとノイズが増えることがあります。推奨は5m以内です。

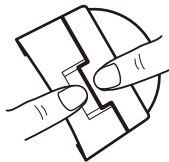
①受光ユニットの取り付け位置を決め、ネジ穴の箇所を鉛筆などであたりをつけます。

取り付けかたは、トランスミッターを使用する位置から見て、天井への取り付けは、受光部（丸くなっているほう）を手前に、壁面への取り付けは、受光部（丸くなっているほう）が上を向くようにします。

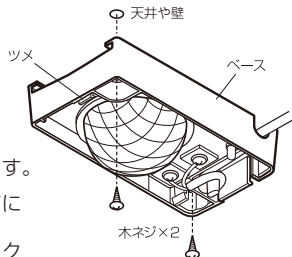


●天井や壁の取り付けネジの位置

②受光ユニットのカバーを開けます。



③木ネジをベースに通し、天井や壁などに取り付けます。



④カバーを元通りにはめ込みます。

⑤レーザーをラックの上などに置きます。
固定する場合は付属のマジックテープをご使用ください。

⑥受光ユニットの RCA ピンプラグをレーザーの受光器入力に接続します。

⚠️ 取り付け上の注意

- 受光ユニットのケーブルを壁などに固定する場合、強い力で固定すると断線することがあるのでご注意ください。
- 取り付け場所の強度を確認してください。強度不足、取り付けの不備による落下などの事故に対する責任は、当社は一切負いません。
- 受光ユニットを取り付けずに、レーザーだけのセッティングにすると赤外光が届かない場合があります。狭い部屋でも取り付けてください。
- 貼り付け板をご使用の場合、天井や壁の材質により、また気温、湿度などの環境によりはがれやすい場合があります。落下して人に当たる可能性のある場所への設置は絶対にしないでください。

受光ユニットのケーブル長を短くすることも可能です。

*φ5mm以下のプラスドライバーを用意します。

①受光ユニットの RCA ピンプラグをレーザーから抜きます。

②カバーを開けます。

③ケーブルを固定しているネジを2本外します。

④ケーブルの導体を外します。

⑤適当な長さにケーブルを切ります。

（複数個使用する際は、ケーブル長をそろえたほうが、受光感度が良くなります。）

⑥ケーブルの被覆を最初に付いていたケーブルと同じ長さにはがします。

⑦各々の導体を丸めてネジと端子との間に差し込んでから、ネジを元通りに締めて完了です。このときショートしていないことを確認してください。ショートすると本体が故障する恐れがあります。

*極性をよく確認して取り付けてください。シールド（太い導体）が「GND」側、芯線（導体が細く黄色い被覆）が「SIGNAL」側です。

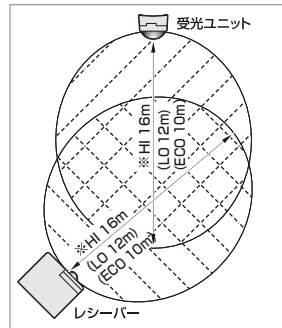
セッティング例

天面から見たセッティング例

受信範囲がある程度重なるように受光ユニットを取り付けると効果的です。また受光ユニットは正面に最大感度を持っているため、天井取り付けよりも壁面取り付けのほうがより効果的です。

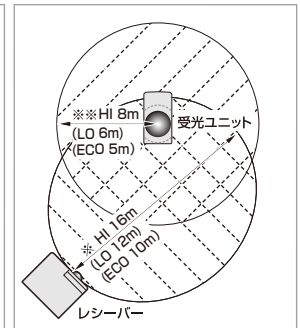
レーザー+受光ユニット 1 個 使用時

●壁面に取り付けた場合



※ミュート入の場合は
HI 9m / LO 7m / ECO 5m

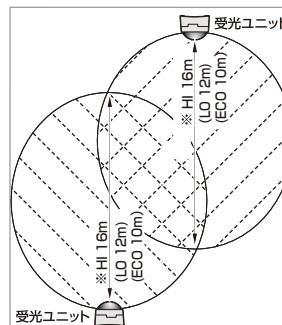
●天井に取り付けた場合



※※ミュート入の場合は
HI 4.5m / LO 3.5m / ECO 2.5m

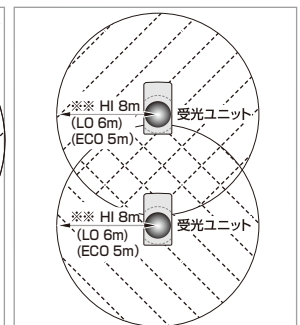
受光ユニット 2 個 使用時

●壁面に取り付けた場合



※ミュート入の場合は
HI 9m / LO 7m / ECO 5m

●天井に取り付けた場合



※※ミュート入の場合は
HI 4.5m / LO 3.5m / ECO 2.5m

*斜線の範囲内でご使用ください。室内の状況により到達距離は変化します。特に直射日光、スポットライト、白熱電灯などの光が受光ユニットに入ると、大幅に到達距離が短くなるのでご注意ください。

*プラズマディスプレイに受光ユニットを向けたり、近付けるとノイズが極端に増える場合があります。

赤外線コードレスマイクロホンシステム互換表

本システムは下表を参考に、マイクロホン、レシーバー、受光ユニットを組み合わせてご使用ください。

搬送波周波数	名称	機種名	AT-CR701	AT724RXMK2	AT-CR771	AT725RXMK2	AT-CR999	AT999RX
2 MHz 帯	マイクロホン	AT-CLM700BP	◎	◎	×	×	○	○
		AT-CLM7000TS/A,B	◎	◎	×	×	○	○
		AT-CLM701T/A,B	◎	◎	×	×	○	○
		AT-CLM701TS/A,B	◎	◎	×	×	○	○
		AT-CLM900T	○	○	×	×	◎	◎
3 MHz 帯	マイクロホン	AT-CLM7700TS/A,B	×	×	◎	◎	○	○
		AT-CLM771T/A,B	×	×	◎	◎	○	○
		AT-CLM990T	×	×	○	○	◎	◎

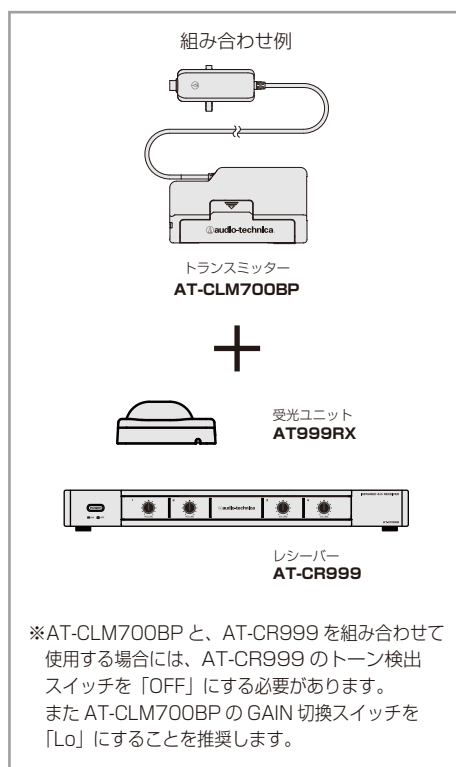
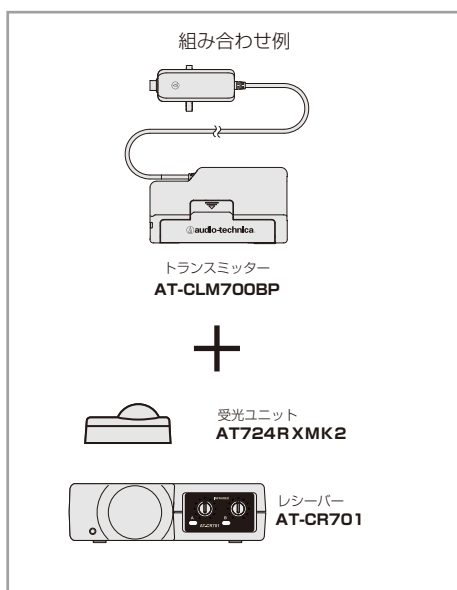
※**AT-CR999** は 1,2 チャンネル→2MHz 帯 / 3,4 チャンネル→3MHz 帯と分かれているのでそれぞれの周波数帯域に合った受光ユニットを接続する必要があります。

* 充電器 **BC700** は上記互換表に記されているすべてのマイクロホンに使用可能です。

* **BC12** は **AT-CLM700BP** 以外のマイクロホンすべてに使用可能です。

* 従来シリーズの **AT-CLM700** シリーズ、**AT-CLM770** シリーズの充電式電池 (RB3H) は、**AT-CLM701** シリーズ、**AT-CLM771** シリーズ、**AT-CLM7000** シリーズ、**AT-CLM7700** シリーズ、**AT-CLM900** シリーズ、**AT-CLM990** シリーズ、**AT-CLM700BP** には使用できません。

* 同周波数帯の /A 同士または /B 同士は同時に使用できません。



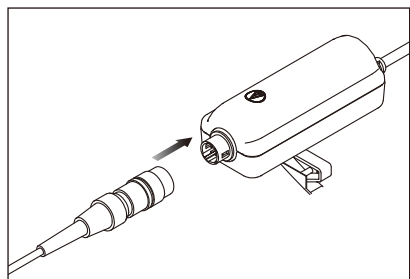
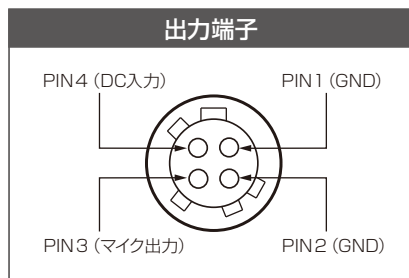
接続のしかた／装着のしかた

本製品はヘッドウォーンマイクロホンを接続して使用します。

※ヘッドウォーンマイクロホンは別売です。

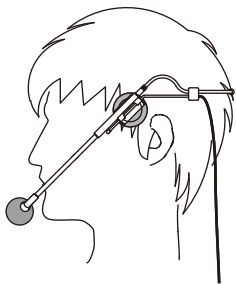
適合ヘッドウォーンマイクロホン AT-HM700/1.0

- ①本製品のマイク入力端子にヘッドウォーンマイクロホンの出力端子を接続してください。

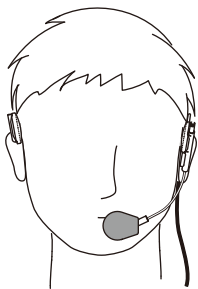


- ②ヘッドウォーンマイクロホンの両側のパッド部分を広げ、図のように装着します。

※このとき、フレキシブルアーム部やマイクロホンを引っ張らないでください。



- ③フレキシブルアーム部分を可動させ、マイクロホンの位置が口の中心になるように調整してください。

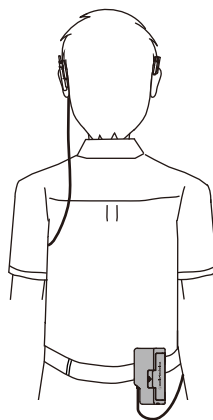


- ④赤外光発光部を見通しのよい場所(胸部中央等)に装着します。



【正面】

- ⑤トランスミッターを腰の位置(ベルト等)に装着します。



【背面】

故障かな？と思ったら

トランスミッターの電源が入らない

- ・充電されていますか？
→出荷時は充電されていません。
充電してからご使用ください。

レシーバーの電源が入らない

- ・AC アダプターが外れていませんか？
→AC アダプターを接続してください。

音が出ない

- ・レシーバーの出力の切り換えは確かですか？
→接続した機器によってマイク／ラインを切り換えます。
- ・接続した機器のボリュームを絞っていませんか？
→ボリュームを上げてください。
- ・受光器入力とマイクロホン出力との配線を間違っていないですか？
→配線を確認してください。

レシーバーが受信しない（電源インジケータが点灯しない）

- ・トランスミッターとレシーバーが受光ユニットとの間に障害物がありますか？
→直視可能な場所に設置してください。
- ・トランスミッターと受光ユニットとの距離が離れていませんか？
→7 ページのセッティング例を参考に到達範囲内でご使用ください。
- ・受光器入力とマイクロホン出力との配線を間違っていないですか？
→配線を確認してください。

満充電してもすぐに電池がなくなってしまう

- ・電池がメモリー効果を起こしている可能性があります。
→トランスミッターの電源スイッチを ON にして5時間以上放置した後、スイッチを OFF にしてまた充電してください。
※上記の操作をしても改善されない場合は、充電式電池の寿命（約750回の充電が目安です）と思われます。新しい充電式電池と交換してください。

充電器に差し込んでも充電インジケータが点灯しない

- ・充電端子部が汚れている可能性があります。
→充電端子部をアルコールで拭いてクリーニングしてください。
- ・充電口に最後までしっかりと差し込まれていますか？
→ケーブルを挟み込んだり、負荷がかかったりしていないか確認して再度入れ直してください。
※原因を取り除き、安定して充電インジケータが点灯するのを確認してください。

※修理品の送付について

修理・検査の場合、お買い上げの販売店または当社の営業所へお送りください。
なお、送料はお客様ご負担とさせていただきます。
製品は輸送中の事故がないように、元通りに梱包してお送りください。

※システムを運用するには下記製品の組み合わせが必要です。

（8 ページの互換表参照）

・コードレストランスミッター AT-CLM700BP	¥30,000.(税抜)
・ヘッドウォーンマイクロホン AT-HM700/1.0	¥20,000.(税抜)
・レシーバー（受光ユニット付き） AT-CR701	¥28,000.(税抜)
・受光ユニット（20m ケーブル付き） AT724RXMK2	¥11,000.(税抜)
・充電器 BC700	¥20,000.(税抜)
・ニッケル水素充電電池 HR15/101(1900mAh)	¥2,400.(税抜)

（改良などのため予告なく変更することがあります。）

テクニカルデータ

コードレストランスミッター：AT-CLM700BP

型式	：バックエレクトロット・コンデンサー型 (AT-HM700/1.0 使用時)
指向特性	：単一指向性 (AT-HM700/1.0 使用時)
変調方式	：FM 周波数変調
搬送波周波数	：A チャンネル・2.06MHz、B チャンネル・2.56MHz
赤外線波長	：870±30nm
到達距離	※室内の状況により変化します。

出力切換	ミュート標準	ミュート入
HI	約 16m	約 9m
LO	約 12m	約 7m
ECO	約 10m	約 5m

バッテリー：ニッケル水素充電電池 **HR15/101 (1900mAh)**（本体に実装済み）、
または単 3 形アルカリ乾電池 ×2（緊急時）

ニッケル水素充電電池使用時

出力切換	連続使用時間
HI	約 4.5 時間
LO	約 8 時間
ECO	約 10.5 時間

単 3 形アルカリ乾電池使用時

出力切換	連続使用時間
HI	約 3 時間
LO	約 6 時間
ECO	約 8.5 時間

外形寸法：トランスミッター：H120×W66×D22.4mm
赤外光発光部：H67×W28×D23mm（クリップ含まず）

ケーブル長：約 55cm

質量：約 167g（専用ニッケル水素充電電池実装時）

●付属品：専用ニッケル水素充電電池 **HR15/101(1900mAh)**

レシーバー：AT-CR701

チャンネル数：2 チャンネル

出力レベル：マイク -45dBV（VOL MAX 時）

ライン -30dBV（VOL MAX 時）

電源：DC12V、500mA

AC アダプター

（**AD-LL1205AH**・JEITA 規格 RC5320A 極性統一形プラグ
◇◇◇◇）

外形寸法：H38×W130×D131mm

質量：約 344g

●付属品：AC アダプター（**AD-LL1205AH**）、
木ネジ ×2、マジックテープ 1 組
3.0m 接続ケーブル ×2

RCA ピンプラグ ⇄ Φ6.3 モノラル L 型標準プラグ

RCA ピンプラグ ⇄ RCA ピンプラグ

：受光ユニット用ケーブル（10m）

：保証書

受光ユニット：AT724RXMK2

外形寸法：H34×W38×D70mm

ケーブル長：20m

質量：約 36g（ケーブル除く）

●付属品：木ネジ ×2、貼り付け板、

：受光ユニット取り付け金具

：保証書

充電器：BC700

方式：急速充電

電源：DC12V、500mA

AC アダプター

（**AD-LL1205AH**・JEITA 規格 RC5320A 極性統一形プラグ
◇◇◇◇）

充電出力：DC4V、400mA×2

標準充電時間：約 5.5 時間（専用充電式電池）

外形寸法：H96×W158×D66mm

質量：約 430g

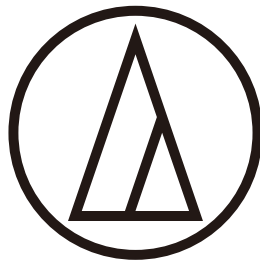
充電式電池使用温度範囲：放電（機器使用時）：-10～+40℃

保存：-20～+40℃

充電：+5～+40℃

●付属品：AC アダプター（**AD-LL1205AH**）

：保証書



audio-technica®
always listening

製品保証および修理などにつきましては、お買い上げのお店あるいは下記までお問い合わせください。

株式会社 オーディオテクニカ

〔東京〕 東京都文京区湯島 1-8-3 テクニカハウス
〒113-8525 ☎ 03(6801)2030

〔名古屋〕 愛知県名古屋市東区葵 3-22-8 ニューザックビル 7F
〒461-0004 ☎ 052(979)4706

〔大阪〕 大阪市淀川区西宮原 2-1-3 SORA 新大阪 21 13F
〒532-0004 ☎ 06(6395)5464

〔福岡〕 福岡市博多区博多駅東 3-12-1 アバント 95 ビル 3F
〒812-0013 ☎ 092(412)7261

<http://www.audio-technica.co.jp/amz>